

年 組 () 名前

記入日 月 日

ふるさと納税 自治体の貴重な財源

善意の寄付で地方を応援しようと、2008年度に始まった「ふるさと納税」は、ここ数年で利用する人が一気に増え、地方自治体の貴重な財源になっている。しかし、過度な返礼品競争が本来の制度の趣旨を逸脱しているとして、昨年、大きな改正が行われた。

ふるさと納税は、応援したいと思う特定の自治体に寄付すると、それに近い額が住民税などから差し引かれる仕組みだ。だが、豪華な返礼品を前面に押し出し、巨額の寄付を集める自治体も現れた。

■一部の自治体に寄付が集中
大阪府泉佐野市は、ネット

通販「アマゾン」のギフト券などの返礼品を用意し、2018年度は全国の寄付総額の1割近い497億円を集めた。

総務省が昨年6月の地方税法改正で、返礼品を「寄付額の3割以下の地場産品」に限定したのは、こうした過度な返礼品競争を抑え込む狙いからだ。2018年度に寄付額が上位だった泉佐野市など4市町は、総務省の自粛要請に従わなかったため、ふるさと納税の制度が使えなくなった。

■施設改修先送り
総務省によると昨年度、ふるさと納税による自治体別の流出額は、横浜市が約

136億7000万円で最多。次いで、名古屋市の約80億9000万円、大阪市の約74億4000万円など都市部が並ぶ。

世田谷区は2015年度から今年度までの減収額が215億円を超える見込みで、公共施設の改修や道路整備の一部を先送りにするなどの影響が出ている。

<3>では、本来入るはずだった税金が得られなかった自治体がランキングになっています。十分な税金が得られず、公共施設の改修費などが足りなくなってしまうこともあるようです。

1 自分が住んでいるところ以外の自治体に寄付をすると、その額に近い金額が税金などから差し引かれる制度をなんと言いますか。

ふるさと納税(制度)

2 次の自治体は、この制度によって寄付金を多く集められているとされていますか、それとも、他の自治体への流出額が大きくなっているとされていますか。記事や表から判断して寄付金を集められている自治体に1、流出額が大きくなっている自治体に2、を書きましよう。

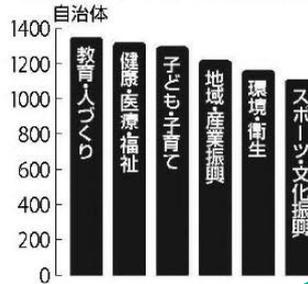
- ・大阪府泉佐野市 (1)
- ・北海道根室市 (1)
- ・さいたま市 (2)
- ・横浜市 (2)
- ・大阪市 (2)
- ・佐賀県みやき町 (1)

3 以下の部分に1つずつ表やグラフを添えたら、どの表やグラフが適切ですか。それぞれ、番号で答えましよう。

- 一部の自治体に寄付が集中 (4)
- 施設改修先送り (3)

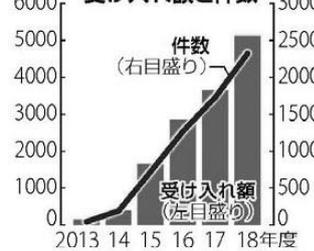
<1> ふるさと納税の使い道で選べる分野

2018年度、複数回答。総務省の調査を基に作成。使い道が選べる自治体が対象



<1>でわかるのは、「ふるさと納税」の使い道、<2>でわかるのは、ふるさと納税の総額と件数です。

<2> ふるさと納税の受け入れ額と件数



<3> ふるさと納税による住民税の流出額が大きい自治体

自治体名	流出額 (億円)	利用者数 (万人)
1 横浜市	136.7	19.4
2 名古屋市	80.9	10.7
3 大阪市	74.4	11.6
4 川崎市	56.4	9.1
5 東京都世田谷区	53.4	7.1
6 神戸市	44.0	6.7
7 東京都港区	42.5	3.2
8 さいたま市	41.2	6.0
9 福岡市	39.1	5.7
10 京都市	39.0	5.8

※2019年度課税分、総務省の調査に基づく

<4>は、たくさんの寄付を集めた自治体ランキングです。魅力的なお礼の品が並びます。

<4> ふるさと納税の寄付額が多い自治体

自治体	寄付額	主な返礼品
1 大阪府泉佐野市	135億円	牛肉、ビール、アマゾンのギフト券
2 宮崎県都農町	79億円	牛肉、豚肉、うなぎ
3 宮崎県都城市	74億円	牛肉、豚肉、マンゴー、焼酎
4 佐賀県みやき町	72億円	県産米「夢しずく」、牛肉、ほうれん草、ぶどう
5 佐賀県上峰町	66億円	牛肉、ぶどう、米、うなぎ
6 和歌山県湯浅町	49億円	みかん、はっさく、梅干し、梨
7 佐賀県唐津市	43億円	ハンバーグ、牛肉、鶏肉
北海道根室市	39億円	ウニ、サケ、カニ、ホタテ
8 高知県奈半利町	39億円	シラス、エビフライ、野菜詰め合わせ
10 静岡県藤枝市	37億円	お茶、シイタケ、いちご

※総務省調べ。寄付額は2017年度で、端数切り捨て。返礼品は現在のもの

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

千葉・長生村

19年度ふるさと納税村で日本一

2019年度ふるさと納税の寄付額で、千葉県長生村が初めて全国の村で1位となった。地場産米やそばなど、返礼品に目新しさはないが、寄付額は右肩上がりだ。村長が自ら寄付者に電話をかけ、感謝を伝える地道な「営業」が、県内唯一の村のファンを着実に増やしている。

「早場米の刈り取りが始まりました。もうすぐおいしいお米をお届けできると思います」。小高陽一村長(68)が電話をかけるようになったのは4年前。5万円以上の寄付者全員が対象で昨年は約1500人に電話した。お礼とともに、九十九里浜に面した村の豊かな自然もPRする。電話を切る時には「来年も寄付します」と言ってくれる人が多く、村の調査では75%がリピーターだという。

総務省が今月公表したふるさと納税の調査結果によると、19

人気の秘密「返礼電話」

年度の長生村への寄付額は7億9250万円、2位の中札内村(北海道)に約8000万円の差をつけた。

電話をかけ始めた16年度に初めて1億円を超え、17年度3億5436万円、18年度6億2644万円と増え続けている。

村の税収は約16億円。これに対し、寄付額は返礼費用を除いても約4億円と大きい。長く内装業を営み、12年に就任した小高村長は「返礼品で競わなくても、誠実に対応すれば村のファンになってくれるはず」と話している。



(2020年8月13日読売新聞夕刊より)

長生村は、豪華なお返しではない手法で、人気を集めているようです。

おもしろいアイデアですね。